

## 外傷性遷延性意識障害患者の BMI はいくらぐらいが適切か

○梶谷 伸顕<sup>1</sup>、西郷 典子<sup>2</sup>、水元 志奈子<sup>2</sup>、渡邊 幸恵<sup>2</sup>、横山 知幸<sup>2</sup>  
草野 こず恵<sup>3</sup>、川本 佑美<sup>4</sup>、高橋 陽平<sup>5</sup>、本多 和成<sup>6</sup>

<sup>1</sup>独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター 外科

<sup>2</sup>独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター 看護部

<sup>3</sup>独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター 薬剤部

<sup>4</sup>独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター 栄養部

<sup>5</sup>独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター 臨床検査部

<sup>6</sup>独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター リハビリ

【目的】外傷性遷延性意識障害患者の体重設定の発表は散見されるのみである。我々は以前から血液生化学検査、間接熱量、体組成等を経時的に測定して体重設定について検討している。今回検討したので発表する。

【対象と方法】期間は平成 17 年 12 月から平成 26 年 4 月までの入院患者男性 123 名、女性 50 名の血液生化学と BMI を、体組成は平成 24 年 3 月～平成 26 年 3 月の男性 35 名、女性 13 名の骨格筋率、体脂肪率を対象項目とした。入院時 BMI が -10%未満を A 群、-10%以上-15%未満を B 群、-15%以上-20%未満を C 群、-20%以上を D 群に分類した。

【結果】入院時のリンパ球数 ( $/\mu\text{L}$ ) は A 群  $1598 \pm 475$ 、B 群  $1637 \pm 532$ 、C 群  $1745 \pm 635$ 、D 群  $1455 \pm 498$  で、アルブミン ( $\text{g/dL}$ ) は、A 群  $3.50 \pm 0.41$ 、B 群  $3.67 \pm 0.47$ 、C 群  $3.67 \pm 0.46$ 、D 群  $3.78 \pm 0.45$  であった。次に骨格筋量 (kg) と脂肪量 (kg) を入院時と 1 年後の変化である。前者で A 群  $18.2 \rightarrow 17.5$ 、B 群  $18.6 \rightarrow 18.5$ 、C 群  $16.7 \rightarrow 18.4$ 、D 群  $18.8 \rightarrow 18.$  で、後者で A 群  $21.1 \rightarrow 19.5$ 、B 群  $15.0 \rightarrow 16.9$ 、C 群  $14.2 \rightarrow 14.6$ 、D 群  $8.8 \rightarrow 11.4$  である。

【考察】筋肉率は経年的に減少する。体重の増減に比例して脂肪も増減する。体重増減の因子として脂肪が大きな割合を占めると考える。健常者の筋肉量は体重に占める割合は約 50%であり、遷延性意識障害の骨格筋量は四肢の活動低下により減少する。従って、体重設定は BMI で -10%以上-15%と当院では考えている